



すだち

The Tokushima University Library Bulletin

徳島大学附属図書館報 No. 53 1996. 1

目 次

巻頭記事

- 本学での学術雑誌の共同利用 …………… 1
 大学図書館における地震対策
 — 国立大学図書館協議会
 シンポジウムに参加して— …………… 3
 阪神大震災救援活動に思うこと …………… 4

トピックス

- 常三島地区における学術雑誌の共同利用
 に関するアンケート調査 (本館) …… 5
 学術雑誌の所蔵調査 (常三島地区) …… 5
 徳島県大学図書館協会研修会 …………… 5

お知らせ

- 本学刊行物, 教官著作物コーナーの設置 6
 本学の学位論文, 科学研究費報告等の収集 6

Current Contents on Diskette

- with Abstracts 自然科学系 4 部門の
 フリーアクセス …………… 6

資料情報

- Audio Visual おすすめの一本 (本館)
 ワーグナーの楽劇『さまよえるオランダ人』 7
 1996年版新規購読・購読中止雑誌一覧 … 8
 本学教官著作寄贈図書一覧 …………… 13

報 告

- 「図書館利用に関するアンケート調査」
 (分館) の結果から …………… 13
 新入生ガイダンスの在り方 (本館) …… 19

図書館日誌

- 人事往来 …………… 20

本学での学術雑誌の共同利用

歯学部教授 (前附属図書館長) 井上秀夫

昨今のみならず今後も予想される学術雑誌のタイトル数の増加と購入費の上昇に対処するには共同利用を促進すると共に重複購入を廃し, その経費を新たな雑誌の購入に当てる必要があります。特に, 大学総経費に占める図書資料費の割合が国立大学の全国平均より低い本学では購入した学術雑誌の

利用率の拡大を計る体制づくりが今後益々重要になるといえます。この共同利用の効率の向上には雑誌の利用体制の整備された附属図書館に集中配置することが必須であると考えられます。

ところで, 本学の共同利用の現況をみてみますと, 常三島地区では学術雑誌のほとんどが共同利用体制

の不備な研究室あるいは学科図書室に配置されており、附属図書館本館は研究図書館としては全く機能しておりません。この本館の利用対象部局が、大学の学外への開放をめざす大学開放実践センターと地域共同研究センターに加えて、大学院博士後期課程が設置されて5年を経過した工学部と、博士課程の設置をめざす総合科学部であることを考える時、この共同利用での後進性は早急に改善されなければなりません。この件については附属図書館常三島地区運営委員会によるアンケート調査が実施されましたが、その結果が今後の改善の契機になることを期待いたします。

付表は中国四国地区の国立大学の中で本学と同じ規模（5～7学部）の山口大学と愛媛大学での附属図書館への継続購入雑誌の集中度を本学のそれと比較したものです。3大学とも本館地区での集中度は医学部分館地区よりかなり低率ですが、なかでも本学本館はタイトル数および集中度とも他大学より低値であることを示しております。

一方、蔵本分館では山口大学医学部分館の97%（工学部分館でも94%）には及びませんが、愛媛大学医

学部分館とはほぼ同じ約50%の集中度を達成しております。但し、他大学の集中雑誌は研究室の校費で購入されたものであるのに対し、蔵本分館の集中雑誌は全て地区部局の拠出分担金で購入されており、研究室校費で購入された雑誌は殆ど全て研究室に分置されております。従って、今後これらの雑誌の分館への移行に努めなければなりません。蔵本分館でのもう一つの問題点は研究室に配置されている雑誌に重複購入が多いことで、和洋雑誌を合わせて約200タイトルに達しています。因みに、この購入費を未購入雑誌の購入にあてると、蔵本地区でのタイトル数は約15%も増加すると計算されます。

以上のように本学での学術雑誌の共同利用では本館のみならず分館にも改善しなければならない事項があり、これらの改善には本学の教官が次の基本方針に理解と協力をいただかなければなりません。すなわち、校費（国費）で購入する学術雑誌の選択は教官に委託されますが、その利用では個人（研究室）の利便のみを優先することなく、広く学内外からの利用にも対応できるよう管理されなければなりません。

表：購入雑誌¹⁾の図書館集中度の比較

大学		本館地区			医学分館地区		
		図書館	研究室	合計	図書館	研究室	合計
山口大学	和洋	659	4,744	5,403	857	28	885
	(%)	12	88	100	97	3	100
愛媛大学	和洋	409	2,734	3,143	385	394	779
	(%)	13	87	100	49	51	100
徳島大学	和	64	602	666	208	309	517
	(%)	10	90	100	40	60	100
	洋	24	754	778	422	488	910
	(%)	3	97	100	46	54	100
	合計	88	1,356	1,444	630	797	1,427
	(%)	6	94	100	44	56	100

1) 重複雑誌数をも含めたタイトル総数（平成7年）で学術雑誌以外の雑誌も含まれている。

大学図書館における地震対策

—国立大学図書館協議会シンポジウムに参加して—

雑誌情報係長 上田 智 一

平成7年11月5・6日の両日、国立大学図書館協議会主催の第8回シンポジウムが大阪大学を会場に35大学44名の参加者を集めて開催された。テーマは「大学図書館における防災、安全管理と緊急事態への対応」で、事例報告や講演が行われた。以下このテーマに関し簡略にまとめてみた。

阪神大震災では、倒壊や消失した建物が多い中で、大学図書館は外壁や内壁の剥落、増築部分の不同沈下等があったが比較的被害も少なかったと言えよう。

被害は、書架の倒壊や落下による破損に限られ、消火やスプリンクラーの誤作動、水道管破裂等による資料等の汚損もなく、最小限に防がれたのではないだろうか。ただ不幸にも、利用者の家屋の倒壊や消失等により、貸し出された図書資料が回収できなかったものが多くあり、図書館にとって大きな損失となった。

書架の被害は書架の材質・構造や倒壊防止策の実施の有無によって無傷のものから転倒、破損、傾斜等多様であった。被害状況の多い原因として、

1. 予想をはるかに越えた地震 (M7.2) であった
2. 壁に書架が固定されていなかった

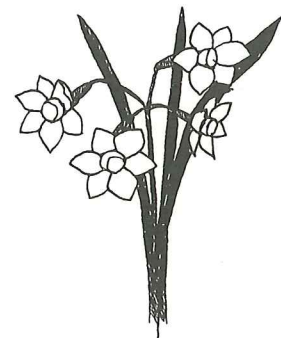
3. 転倒防止策が不十分であった

- ・ 書架を柱などの木部やボード壁に固定していた
- ・ 床や壁に止めたボルトが短く、止めた部分がモルタル内であった

ことがあげられる。

スライドや写真による書架の転倒や資料の散乱状況を見ると今回の地震が開館時間帯に発生していたなら、多数の人命に係わる大惨事になっていたと思われる。過去に新潟地震や宮城県沖地震、北海道南西沖地震等各地で大地震が発生し、これらの経験から多くの耐震に対する指摘や提案が報告されているが、図書館の書架を中心とする家具類は利用者や職員のすぐ隣り合わせにあり倒壊した場合人身事故につながる。そのため人命の安全を第一に考え、その安全性について再点検し耐震対策を立てなければならない。

国立大学図書館協議会では「防災と災害時緊急対策調査研究班」を設置し、阪神大震災の検討結果を取りまとめ発表することになっている。災害対策に向けての具体的な提言を期待している。



阪神大震災救援活動に思うこと

図書館専門員 尾原 忠雄

昨年1月17日(火)に起きた阪神大震災は、近府県に
いるものにとって我が身に降りかかった災害ともと
らえなければならない。事後地震発生の検証によれ
ば、起因として活断層のずれが指摘されていること
は、各地に頻発する地震と異なり、活断層が身近に
存在する地域においてこの度と同様の震災が起こり
うと思うからである。

さて、この日の出来事は大地震を報ずるテレビニ
ュースにより、その惨禍を目の当たりに見ることと
なった。一瞬の出来事がこの地域を真っ暗闇の地獄
の底に追いやったのである。そしてだんだんと詳細
なニュースとなって報道されるころから国内外から
の救援の申し出が間髪をいれず多数もたらされるよ
うになった。私達も何かお役に立つことがあればと
考えていた矢先に、国立大学附属図書館事務部長会
議が丁度18日に長崎で開催され、この救援について
検討が行われ、京阪神地区国立大学図書館を中心と
して、神戸大学及び神戸商船大学の図書館に対し救
援を行うことを決定した。本学もこの仲間に組み入
れてもらうことが了承されたのを受け、23日(月)本学
事務局と救援体制について相談を行ったところ学内
から図書館を除き15名程度派遣が可能との回答が時
を移さずもたらされ、その迅速性に驚かされた。し
かし、結果は月が変わる2月13日、20日からの各3
日間に図書館要員各2名が派遣されたのみに止まっ
た次第となった。これにはいろいろと事情があった
ようであるので触れないでおく。

この度の震災の特異な点は、山の手側には震災の
傷痕は表面上あまり見られず、海岸線側に生々しい
惨状が偏っているように特に感じた。その状況は六
甲山に位置する大学からだんだん町の中心部に下る
につれ損傷の度合いが増していることから見るこ
とができる。

大学到着後直ちに指定の国際・教養系図書館に出

向いた。すでに京大、大阪外大、大阪教育大からの
派遣要員が先着していた。初日は12、3名で、まず
自己紹介をすませ9時から作業にとりかかった。作
業は、地震による揺れにより書架から落下した図書
の再配架(整理・整頓)をすることを指示された。
書庫6層内の作業場は、やはり当初想像していた状
況と同じで、各書架間に棚から落下した図書が山積
みとなり60cm~50cmの高さとなって足の踏場もな
いほどであった。配架図書の落下率は、各書架60%程
度で、書架の上層程その比率は高く、最上層(6層)
では80%程度が落下していた。2日目。前日の箇所
の整理・整頓と同6層の国内雑誌の再配架を行った。
3日目、1層の外国雑誌の再配架を行い、一応の目
処がついた段階で徳島大学は作業を打ち切り、他大
学に作業を引き継いだ。

この派遣活動について、今後のあり方も踏まえ意
見を述べてみることにする。我々が到着した時には、
すでに国際・教養系図書館以外の各系図書館と別地
区の医学図書館は、震災直後から職員により整理・
整頓が終わっていること。このことは被災地職員が
困苦の中で自分らの手で成し終えたという事実であ
る。いや、遠慮しての話で作業途中であったかもし
れない。そして、その過労からリーダーを含め、幾
人かが病に倒れたこと、学内の体育館に被災者を収
容していること、授業は休講中であるが、最低限度
の利用に供していることなどを含めてみると、その
疲労は肉体的・精神的に極限状態でなかったかと想
像することができる。全般的な救援活動をみても何
かできるのではないかとボランティア活動に身を投
じた若者も多いと聞く。このような被災に対する救
援活動は、一時も早い精神的立ち直りのきっかけを
与えるために、できることは押し掛けてでもお世話
できることが必要であると痛感した。

トピックス

常三島地区における学術雑誌共同利用に関するアンケート調査（本館）

去る11月30日から12月14日まで、附属図書館常三島地区運営委員会は標記のアンケート調査を実施しました。

常三島地区においては、学術雑誌が図書館にほとんど備えつけられていないこともあって、非常に利用しにくくなっています。ここ数年大学院の充実や留学生の増加とともに、大学院生や留学生からの不満の声も強くなってきました。この調査では、地区内の学術雑誌の共同利用を推進するため、委員会の基本的な実施構想案を提示するとともに、それについて教官一人一人にご意見をお聞きしました。

常三島地区の教官の方々には、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

学術雑誌の所蔵調査（常三島地区）

附属図書館本館の学術雑誌所蔵目録は和文編が昭和54年に、欧文編が昭和57年に刊行されすでに16年が経過しております。この間、常三島地区では学部等の改組、学科の新設等による新規購読雑誌の増加、購読中止や、研究室等からの図書館への返却、欠号の発生などによりその所蔵情報は大幅に変動しております。学術情報サービス提供に重大な支障をきたしております。

図書館では、こうした状況を一刻も早く改善し、利用者に正確な所蔵情報を提供できるよう全面的な所蔵調査を実施することになりました。この調査は、図書館所蔵の雑誌に限定せず、研究室等に協力を依頼し研究室所蔵の学術雑誌も調査対象としました。

平成9年2月の機器更新にあわせて所蔵情報をデータベース化し、研究室等のLAN接続端末から検索できるよう計画しております。

徳島県大学図書館協会研修会

去る11月29日、附属図書館において、徳島県大学図書館協会の平成7年度第1回研修会が開催されました。同協会は、徳島県下の国公立大学等の図書館で構成され、昭和59年度から図書館間の相互協力とその健全な発展及び図書館員の研修を目的として活動しています。当研修会は協会活動の一環として開催されたものです。

『大学図書館における電子化情報の利用』をテーマとして、加盟図書館から15名が参加し、当館のCDサーバシステム、OPAC等のデモンストレーションの後、近藤分館情報調査係長から「徳島大学附属図書館における電子化情報の利用」について講義があり、加盟各館の電子化への取り組み状況の紹介、質疑等が活発に行われました。

研修会終了後、懇親会が催され、遅くまで、情報交換が行われました。



お知らせ

本学刊行物, 本学教官著作物コーナーの設置

本館3階ロビーおよび分館2階に、標記のコーナーを設置しました。いずれの資料も他の資料と同様に、書庫や開架書架に配架していましたが、学内外の利用者に、本学に対する理解をより深めていただくため、とくに別置することにしたものです。他の資料と同様、貸出もできますので、ぜひご利用下さい。

なお、今後著作物の発行にあたっては本館、分館に備えつけるため2部ご寄贈下さいますよう併せてお願いします。

本学の学位論文, 科学研究費報告等の収集

本学では、標記の学術資料を体系的に収集して自由に利用できる部署がなく、閲覧を求める利用者は、各学部ごとに庶務係へ出向いたり、作成者に直接交渉して閲覧したりしているのが現状です。附属図書館では、このような問題を解決するため、標記資料を積極的に収集して利用に供することになりました。

研究者の方々には、科学研究費報告やその他の研究報告を、これまで以上にご寄贈いただくとともに、図書館においても各学部等の協力を得て学位論文等の収集に努めるつもりですので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



Current Contents on Diskette with Abstracts 自然科学系4部門のフリーアクセス

Current Contents は、読んで字の如く、最新の学術雑誌の目次・抄録誌のことです。ISI社が発行しているもので、形態としては、冊子体、フロッピーディスク版、CD-ROM版があります。当館でサービスするのは、以下の4部門のフロッピーディスク版です。

- ① Life Sciences J-1200 ed.
- ② Agriculture, Biology & Environmental Sciences ed.
- ③ Physical, Chemical & Earth Sciences ed.
- ④ Clinical Medicine ed.

このサービスは、平成5年からサービスを開始したMEDLINE (CD-ROM版)のネットワークサービスで使用しているCD-ROMサーバ(パソコン)のハードディスクに、フロッピーディスクで供給されるCurrent Contentsのデータをダウンロードして、ネットワークに接続しているMacintoshからそのデータを検索できるものです。なお、Macintosh以外の端末からは検索できません。

サービスの開始時期は、平成8年1月中を予定しています。図書館の2階情報検索コーナーに設置しているMacintoshからも使用できます。

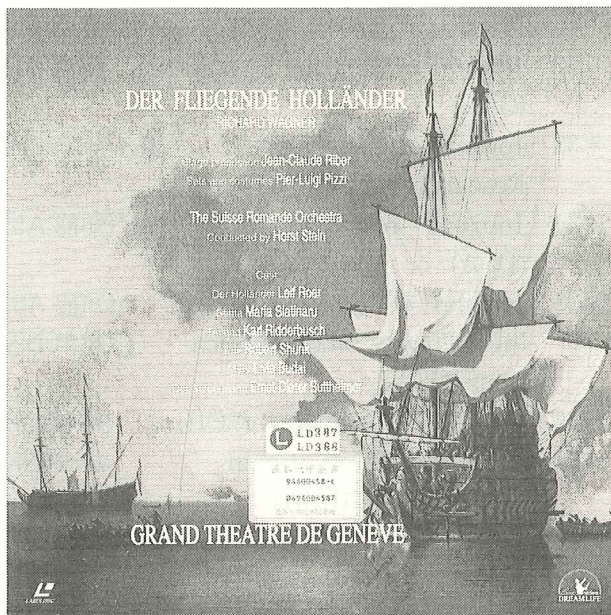
このサービスは、1996年の1年間のみ、無料です。以後のサービスについては、これから検討したいと考えています。

詳しい使用方法の説明については、MLニュース、講習会等を通じて行う予定です。

Audio Visual おすすめの一本（本館）

ワーグナーの楽劇『さまよえるオランダ人』

総合科学部教授 石川 栄 作



前回に引き続いて本学附属図書館（本館）所蔵のレーザー・ディスク（LD）の中からオペラ作品を紹介することになった。今回はワーグナー（1813-83）の楽劇の中でも初期の作品『さまよえるオランダ人』（1841年作曲，1843年初演）をお薦めしたい。この作品はドイツ語IIの授業でも何度か取り上げたことがあるので、ご存じの学生も多いことだろう。ここ数年のうちにも再度講読したいと思っている。ワーグナーの作品の中では比較的短い作品であり、気楽に楽しめるので、私も日頃からかなり頻繁に鑑賞している作品である。まずこの楽劇（全三幕）のあらすじを簡単に紹介すると、主人公のオランダ人船長は、かつて激しい嵐に襲われたとき、神を呪う言葉を吐いたため、神の怒りに触れて、その罰として永遠に七つの海をさまよわなければならない。ただ七年に一度だけ上陸することが許され、その際不滅の愛を捧げる乙女を見出せば、その呪いから解放されることになっている。しかし、なかなかそのような乙女は見つからない。またもや七年が過ぎて上陸の年、ついにオランダ人はノルウェーの海岸で真実の愛を捧げる意志のある乙女ゼンタに出会うが、その家に

出入りしている獵師エーリクをゼンタの婚約者だと誤解し、今度も裏切られたと思って、再び永遠の海へと船を乗り出す。それを見たゼンタは、その船を追いかけるように高い崖の上から海の中へ身を投じて不滅の愛を証明してみせると、たちまちオランダ船は海に沈むものの、やがて波間からオランダ人は神の呪いから解放されてゼンタとともに昇天する。

本学附属図書館（本館）に所蔵されている『さまよえるオランダ人』（コレクション番号LD 387-388）は、1980年2月1日スイスのジュネーブ大劇場においてライブ収録されたものである。指揮はお馴染みのホルスト・シュタインで、演奏はスイス・ロマンド管弦楽団。演出は正統派を自認するジャン＝クロード・リベールで、ワーグナーの演出意図をかなり忠実に守っている点で注目に値しよう。例えば、衣裳の隅々にまで気を配った演出によって、生死の間をさまよう中間的存在のオランダ人が幽霊であることを我々に改めて思い起こさせてくれる。そのほかこの演出で特に印象的なのが幽霊船の「赤い帆」である。「赤い帆」は全三幕を通じて現われ、なかでも第二幕でゼンタが「オランダ人のバラード」を歌う際にも背景に現われて、効果的な役割を果たしている。ただオランダ人がゼンタとともに昇天する最終場面は、私の好みからすれば少し物足りなさを感じるが、しかし、その最終場面において読み取られる「女性の愛による救い」はワーグナーの作品世界に共通するテーマであり、この作品によってワーグナーは独自の「楽劇」の道を歩き始めたと言ってもよい。この作品の中にはすでにその後のワーグナーの特徴がさまざまなかたちで織り込まれているのである。是非一度図書館三階の視聴覚室で鑑賞していただきたい。もちろん日本語字幕付きだが、例えば音楽友之社の「オペラ対訳シリーズ」などでドイツ語のリブレットを傍らに置いて鑑賞すれば、オペラというものをもっともっと楽しく、魅力的なものとなることであろう。

1996年版 新規購読雑誌一覧 (本館)

(欧文の部)

- | | | | | |
|------|--|-------|------|---------------------------------------|
| * 1 | Accountancy(Magazine). (GBR) | 総(経済) | * 28 | Journal of the American Statis- 総(数理) |
| * 2 | Advances in Applied Probabil- 総(数理) | | | tical Association. (USA) |
| * 3 | Advances in Differential 総(数理) | | * 29 | Journal of Applied Probability. 総(数理) |
| | Equations. (USA) | | | (GBR) |
| * 4 | American Anthropologist. 総(史学) | | * 30 | Journal of Cell Science. (GBR) 総(生物) |
| | (USA) | | * 31 | Journal of Computational 総(数理) |
| * 5 | American Ethnologist. (USA) 総(史学) | | | Physics. (USA) |
| * 6 | Annual Review of Anthropol- 総(史学) | | * 32 | Journal of Conflict Resolution. 総(経済) |
| | ogy. (USA) | | | (GBR) |
| * 7 | Applied Mathematics and 総(数理) | | * 33 | Journal of Consumer 総(スポーツ) |
| | Computation. (USA) | | | Research. (USA) |
| * 8 | Applied Optics. (USA) 工(光応用B1) | | * 34 | Journal of Cryptology. 工(知能A5) |
| * 9 | Asterisque. (FRA) 総(数学) | | | (USA) |
| * 10 | Australian Journal of 総(経済) | | * 35 | Journal of Electron Test- 工(知能A5) |
| | International Affairs. (AUS) | | | ing: Theory and Applica- 工(電気D2) |
| * 11 | Beitrag zur Geschichte der 総(独仏) | | 36 | Journal of Geometry. (SCH) 総(数学) |
| | Deutschen Sprache. (DEU) | | * 37 | Journal of International 総(経済) |
| * 12 | British Journal of Political 総(経済) | | | Management. (USA) |
| | Science. (GBR) | | * 38 | Journal of Japanese Studies. 総(経済) |
| * 13 | Canadian Journal of Political 総(経済) | | | (USA) |
| | Science. (CAN) | | * 39 | Journal of Logic Language and 総(英文) |
| * 14 | Canadian Public Policy. (CAN) 総(経済) | | | Information. (NLD) |
| * 15 | Control Engineering 工(機械C4) | | 40 | Journal of Mathematical 工(基礎B) |
| | Practice. (GBR) | | | Biology. (DEU) |
| * 16 | Current Anthropology. (USA) 総(史学) | | * 41 | Journal of Molecular Evolution. 総(細胞) |
| * 17 | Ecological Engineering. (NLD) 総(環境) | | | (DEU) |
| * 18 | Economy and Society. (GBR) 総(経済) | | 42 | Journal of Phycology. (US) 総(生物) |
| | | | | |
| | | | * 43 | Journal of Sport Manage- 総(スポーツ) |
| | | | | ment. (USA) |
| * 19 | Electronics Letters. (GBR) 工(電気D1) | | * 44 | Leisure Sciences. (USA) 総(スポーツ) |
| * 20 | Environmental Politics. (GBR) 総(経済) | | * 45 | Leisure Studies. (GBR) 総(スポーツ) |
| * 21 | Environmental Science and 総(環境) | | * 46 | Maclean's. (CAN) 総(経済) |
| | Technology. (USA) | | | |
| * 22 | Foreign Policy. (USA) 総(経済) | | * 47 | Man. (USA) 総(史学) |
| * 23 | Hobbes Studies. (NLD) 総(経済) | | * 48 | Management Science: Applica- 総(数理) |
| 24 | IEEE Transactions on Pat- 工(機械C2) | | | tion and Theory. (USA) |
| | tern Analysis and Machine | | * 49 | Marine Micropaleontology. 総(地球) |
| | Intelligence. (USA) | | | (NLD) |
| * 25 | International Journal of 総(スポーツ) | | * 50 | Mathematical Research Letters: 総(数学) |
| | Sports Medicine. (USA) | | | MRL. (USA) |
| * 26 | International Studies Quarterly. 総(経済) | | * 51 | Metaphor and Symbolic 総(英文) |
| | (USA) | | | Activity. (USA) |
| * 27 | Journal of Algebraic Geometry. 総(数学) | | * 52 | Millennium. (GBR) 総(経済) |
| | (USA) | | * 53 | Natural Language & Linguistic 総(英文) |
| | | | | Theory. (NLD) |

*印：純種類数を表す (以下同じ)

- | | | | | | |
|--------|--|-----------|-----|---|----------|
| *54 | Natural Language Semantics. (NLD) | 総(英文) | *64 | Profil. (AUT) | 総(独仏) |
| *55 | Naval Research Logistics. (USA) | 総(数理) | *65 | Quarterly Journal of Engineering Geology. (GBR) | 工(建設 C3) |
| *56 | Optics Letters. (USA) | 工(光応用 B1) | *66 | Review of English Studies. (GBR) | 総(英文) |
| *57 | OR Spektrum. (DEU) | 総(数理) | *67 | SIAM Journal on Applied Matheamtics. (USA) | 工(基礎 B) |
| *58 | Orbis. (USA) | 総(経済) | *68 | Soil Dynamics and Earthquake Engineering. (GBR) | 工(建設 C3) |
| *59 | Physica. C: Superconductivity. (NLD) | 総(物基 2) | *69 | Studies in Political Economy. (CAN) | 総(経済) |
| *60 | Physica. D: Nonlinear Phenomena. (NLD) | 総(数学) | *70 | Sugaku Exposition: AMS. (USA) | 総(数学) |
| *61 | Political Science Quarterly. (USA) | 総(経済) | *71 | Zeitschrift fur Deutsche Philologie. (DEU) | 総(独仏) |
| *62 | Political Studies. (GBR) | 総(経済) | | | |
| *63 | Political Theory. (USA) | 総(経済) | | | |
| (和文の部) | | | | | |
| *1 | CIPIC ジャーナル | 総(経済) | *15 | 民族芸能研究 | 総(史学) |
| *2 | 中国道教 | 総(史学) | *16 | 南島史学 | 総(史学) |
| *3 | 中央研究院民族学研究所集刊 | 総(史学) | *17 | 日中文化研究 | 総(史学) |
| *4 | フィットネス・ジャーナル | 実践セ | *18 | 日本民族学 | 総(史学) |
| *5 | 外交フォーラム | 総(経済) | *19 | 日経イベント | 総(スポーツ) |
| 6 | インターフェース | 工(知能 A5) | *20 | 農業と経済 | 総(経済) |
| *7 | Japanese Journal of Sports Sciences. | 実践セ | *21 | POETICA
(秀文インターナショナル) | 総(英文) |
| *8 | かんきょう | 総(経済) | *22 | 月刊 レジャー産業・資料 | 総(スポーツ) |
| *9 | 香りの本 | 総(スポーツ) | *23 | 臨床スポーツ医学 | 総(スポーツ) |
| 10 | からだの科学 増刊共 | 実践セ | *24 | 世界宗教研究 | 総(史学) |
| *11 | 経済 | 総(経済) | *25 | 社会人類学年報 | 総(史学) |
| *12 | 国際商業 | 総(経済) | *26 | 思春期青年期精神医学 | 総(スポーツ) |
| *13 | 季刊 民族学 | 総(史学) | *27 | 台湾文献 | 総(史学) |
| *14 | 民族学研究 | 総(史学) | *28 | 取締役の法務 | 総(経済) |

1996年版 購読中止雑誌一覧 (本館)

(欧文の部)

- | | | | | | |
|----|---|----------|-----|---|----------|
| *1 | Abstracts of Papers Presented to the American Mathematical Society. (USA) | 工(基礎 B) | *6 | Forschung im Ingenieurwesen. (DEU) Ausgabe B: VDI-Forschungsheft. | 工(機械共) |
| *2 | Ambiente-Wohen International. (DEU) | 総(美術) | 7 | IEEE Transactions: Industry Applications. (USA) | 工(電気 B1) |
| *3 | Artificial Life. (USA) | 工(知能 B3) | *8 | IEEE Transactions: Power Delivery. (USA) | 工(電気 B3) |
| *4 | Computing. (AUT) | 工(基礎 B) | *9 | IEEE Transactions: Software Engineering. (USA) | 工(知能 B4) |
| *5 | Evolutionary Computation. (USA) | 工(知能 B3) | *10 | Information Sciences. (USA) with Inf. Sci; Applications. | 工(機械 C4) |

* 11	International Journal of Game Theory. (USA)	工(知能 B2)	* 20	Numerical Heat Transfer. Pt.B (USA)	工(機械 B3)
* 12	International Journal of Modelling and Simulation. (USA)	工(知能 B3)	* 21	Olhydraulik und Pneumatik. (DEU)	工(機械 C5)
* 13	Journal of Franklin Institute. (USA)	工(電気 D1)	* 22	Operation Research incl. ORSA/TIMS. (USA)	工(知能 B2)
* 14	Journal of the Operational Research Society. (USA)	工(知能 B2)	* 23	Profil. (AUT)	総(独仏)
* 15	Journal of the Optical Society of America. A B (USA)	工(電気 B5)	* 24	Solid State Communications. (USA)	総(物基 2)
* 16	Mathematical Programming. (NLD)	工(知能 B2)	* 25	Stochastics and Stochastics Reports. (GBR)	総(数理)
* 17	Mathematics of Operations Research. (USA)	工(知能 B2)	* 26	Teaching Children Mathematics. (USA)	実践セ
* 18	Microtechnic. (SCH) 廃刊	工(機械 C1)	* 27	VDI Zeitschrift. (DEU)	工(機械共)
* 19	Numerical Heat Transfer. Pt.A (USA)	工(機械 B3)	* 28	ZAMM-Zeitschrift fur Angewandte Mathematik und Mechanik. (DEU)	工(機械共)

(和文の部)

* 1	アートニュース(日本版) 休刊	総(美術)	* 17	科学技術文献速報 化学・化学工業編(外国編)	工(化学共)
* 2	電気学会研究会資料 静止機	工(電気 B1)	* 18	科学技術文献速報 化学・化学工業編(国内編)	工(化学共)
3	電子技術	工(電気共)	* 19	看護研究	総(生化)
* 4	電子情報通信学会技術研究報告 光通信システム	工(電気 C6)	* 20	官公労働 21 切り抜き速報 科学版	総(経済) 実践セ
* 5	電子情報通信学会技術研究報告 人工知能と知識処理	工(知能 B4)	* 22	切り抜き速報 生活と科学版	実践セ
6	電子情報通信学会技術研究報告 パターン認識と理解	工(知能 A2)	* 23	国防 (廃刊)	総(経済)
7	道路	工(建設共建設 C1)	* 24	NEW DIAMOND	総(環境 1)
* 8	外交時報	総(経済)	25	ニュートン	工(電気共)
* 9	画像ラボ	工(知能 A2)	* 26	Oncologia.	総(生化)
* 10	現代農業	総(経済)	27	オートメーション	工(電気 B1)
11	言語	総(国文)	* 28	PIXEL (休刊)	工(知能 B1 知能 A3)
* 12	標準化ジャーナル	工(機械共)	* 29	理科教室	総(環境1)
13	インターフェース	工(電気 B1)	* 30	センサー技術 (休刊)	工(電気 B1 知能 B1)
14	ISLA(イスラ) (休刊)	工(建設 A2)	* 31	心身医学	総(生化)
* 15	自動車技術会論文集	工(機械共)	* 32	初等理科教育	総(環境 1)
* 16	情報処理学会研究会資料 人工知能	工(知能 B4)	* 33	測量	工(建設共)
			34	数理科学	工(電気 B1)
			35	蛋白質・核酸・酵素 本文のみ	総(生化)

(国内欧文の部)

* 1	Journal of Biochemistry.	総(細胞)	* 2	Sensors and Materials.	工(電気 A6)
-----	--------------------------	-------	-----	------------------------	----------

誌名変更

1	Journal of Gerontology. Ser. A B に分離	←	Journal of Gerontology. (USA)
---	--------------------------------------	---	-------------------------------

- 2 Liebig's Annalen:Organic and Bioorganic Chemistry. (DEU) ← Liebig's Annalen der Chemie. (DEU)
 3 Heat and Mass Transfer. (NLD) ← Warme und Stoffubertragung. (DEU)

1996年版 新規購読雑誌一覧 (分館)

(欧文の部)

- | | | | |
|--|---------|--|-------|
| 1 American Journal of Respiratory & Critical Care | (麻酔) | * 12 Journal of Nursing Care Quality. (USA) | (図短) |
| * 2 Archives of Andrology. (USA) | (産婦) | * 13 Journal of Nutritional Immunology. | (実栄) |
| 3 Cardiovascular Surgery. | (心血外) | * 14 Medical and Pediatric Oncology. & suppl. (USA) | (小児) |
| * 4 Cellular and Molacular Biology. (FRA) | (図医) | * 15 Modern Pathology. | (一病) |
| 5 Circulation. | (心血外) | * 16 Nature Genetics. (GBR) | (一内) |
| * 6 International Journal of Cancer: Predictive Oncology. (CHE) | (二病 図歯) | * 17 Occupational and Environmental Medicine. (USA) | (公衛) |
| * 7 International Journal of Development Biology. (SPA) | (二口解) | * 18 Oncology Nursing Forum. (USA) | (図短) |
| * 8 International Journal of Periodontics and Restorative Dentistry. (GBR) | (二保存) | * 19 Ophthalmology World News. | (図医) |
| 9 Journal of Clinical Investigation. (USA) | (臨検医) | * 20 Pediatric Neurology. (USA) | (脳外) |
| * 10 Journal of Emergency Nursing. (USA) | (図短) | 21 Pediatrics: Official publication of the American Academy of Pediatrics. (USA) | (産婦) |
| 11 Journal of Immunology. | (口病理) | 22 Science. | (臨検医) |
| | | * 23 Weekly Epidemiological Record. (CHE) | (図医) |

(和文の部)

- | | | | |
|---|-------|----------------------|--------|
| 1 医学のあゆみ | (二病) | * 6 看護管理 | (図短) |
| * 2 The International Journal of Periodontics and Resotrative Dentistry | (一補綴) | 7 日本医事新報 | (一内) |
| * 3 Internet Magazine | (分析) | 8 日本助産学会誌 | (短助産) |
| * 4 Internet User | (分析) | * 9 Quality Magazine | (図短) |
| 5 実験医学 | (臨検医) | 10 細胞工学 | (環境生物) |
| | | 11 先端医療 | (放射) |

1996年版 購読中止雑誌一覧 (分館)

(欧文の部)

- | | | | |
|--|------|--|-------|
| 1 American Journal of Clinical Nutrition. (USA) | (実栄) | 5 Current Contents on diskette: Clinical Medicine. (USA) | (歯放射) |
| 2 American Journal of Physiology: Cell Physiology. (USA) | (一生) | 6 Current Contents on Diskette: Life Science. (USA) | (一口解) |
| * 3 Biological Trace Element Research. (USA) | (衛生) | 7 Current Contents on Diskette: Life Science. (USA) | (酵遺) |
| 4 Cell. | (酵病) | 8 Diabetes Care. (USA) | (臨検医) |
| | | * 9 Endocrine Pathology. (USA) | (一病) |

- | | | | | | |
|-----|--|------|-----|--|--------|
| *10 | Journal of Neurological Sciences. (NLD) | (一病) | 15 | Nature. (GBR) | (情報生物) |
| 11 | Journal of Nutrition. (USA) | (実栄) | 16 | Neurology. (USA) | (一病) |
| *12 | Journal of Pediatric Hematology/Oncology. (USA) | (小児) | *17 | Neuromuscular Disorders. (GBR) | (一病) |
| | ← American Journal of Pediatric Hematology/Oncology. (USA) | | 18 | Thoracic and Cardiovascular Surgeon. (DEU) | (二外) |
| *13 | Journal of Perinatal Medicine. (DEU) | (産婦) | *19 | Trance Elements & Electrolytes. (EDU) (旧: Trance Elements in Medicine) | (衛生) |
| *14 | Journal of Reproduction and Fertility. (GBR) | (産婦) | *20 | Transfusion Medicine. (GBR) | (輸血部) |

(和文の部)

- | | | | | | |
|----|---------------------------|--------|-----|--|-------|
| *1 | アイデア | (画室) | *9 | 臨床胸部外科 → Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery | (二外) |
| 2 | ホルモンと臨床 | (産婦) | 10 | 臨床科学 | (衛生) |
| *3 | 感染症学雑誌 | (ウイルス) | 11 | 産婦人科の世界 | (産婦) |
| 4 | 呼吸と循環 | (二外) | 12 | 産科と婦人科 | (短助産) |
| 5 | 厚生指標(特集号のみ) | (特栄) | *13 | 歯科ジャーナル (休刊) | (図歯) |
| 6 | 教育と医学 | (精神) | | | |
| *7 | My Computer Magazine (休刊) | (図短) | | | |
| *8 | ナースプラス1 (休刊) | (図短) | | | |

誌名変更 (廃刊等を含む)

- | | | |
|----|---|--|
| 1 | American Journal of Health-System Pharmacy. | ← American Journal of Hospital Pharmacy. |
| 2 | Annals of Allergy Asthma & Immunology. | ← Annals of Allergy. |
| 3 | Fitness and Sports Review. (USA) 廃刊 | |
| 4 | International Journal of Biochemistry and Cell Biology. | ← International Journal of Biochemistry. |
| 5 | Liebig's Annalen. | ← Liebig's Annalen der Chemie. (DEU) |
| 6 | Strength and Conditioning. | ← National Strength and Conditioning Association |
| 7 | Neurobiology of Learning and Memory. | ← Behavioral and Neural Biology. |
| 8 | Oncologia. 廃刊 | |
| 9 | European Journal of Oral Sciences. | ← Scandinavian Journal of Dental Research. |
| 10 | Track & Field Coaches Review | ← Track and Field Quarterly Review |
| 11 | Track Coach. (USA) | ← Track Technique. (USA) |
| 12 | 月刊ミクス | ← 月刊ディテールマン |
| 13 | GP net | ← 環境衛生 |
| 14 | 理学療法科学 | ← 理学療法のための運動生理 |
| 15 | Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. | ← 臨床胸部外科 |
| 16 | 大気環境学会誌 | ← 大気汚染学会誌 |

本学教官著作寄贈図書一覧 (平成7年7月～11月受入分)

下記の著作が寄贈され、図書館資料として利用に供しています。寄贈者の方々に改めてお礼を申し上げます。教官著作物コーナーを設置しましたので、刊行の際は是非寄贈下さるようお願いいたします。

本 館

著 者 名	書 名	発 行 所	寄 贈 者
中嶋 信	協同組合運動の転換	青 木 書 店	中嶋 信
佐野 勝徳	子育て、子育ち、生活リズム	エ イ デ ル 研 究 所	佐野 勝徳
佐野 勝徳	まんが子育て	エ イ デ ル 研 究 所	佐野 勝徳
佐野 勝徳 他	イラストで見る楽しい子育て	エ イ デ ル 研 究 所	佐野 勝徳
宇都宮英彦	橋についての質問箱	徳島橋梁技術者の会	宇都宮英彦

蔵本分館

著 者 名	書 名	発 行 所	寄 贈 者
	PDR: Physicians' Desk Reference. 49th ed. 1995	Medical Economics	医学部附属病院薬剤部 高杉 益充
鎌田 武信 高杉 益充 編	新編 診断・治療の進歩と新しい薬剤	医薬ジャーナル社	医学部附属病院薬剤部 高杉 益充

報 告

「図書館利用に関するアンケート調査」(分館)の結果から

分館情報調査係 上 原 佐知子
分館情報サービス係長 桜 木 強

平成6年から7年にかけて、蔵本分館ではいくつかの改革を行いました。その一つは雑誌貸出のオーバーナイトローン方式への変更と、それに伴うコピー機の増設、校費複写料金の値下げです。もう一つは、MEDLINE 検索端末の増設、CCOD/A 検索サービスの開始、そして、それらの学内 LAN を通しての提供です。このような変化を利用者の方々がどのように受けとめているのかを知るため、今年の6月、蔵本分館を主に利用している医・歯・薬・酵素研・医短の教官・大学院生を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケートの配布部数は「教官：498部、院生：315部」で、回収部数は「教官：271部、院生：153部、身分不明：22部」であり、回収率は「教官：54.4%、院生：48.6%」でした。

この調査結果の中から、1) 開館時間について、2) 雑誌の貸出及びコピーについて、3) CD-ROM 文献検索システムについて、の結果をご報告します。なお、集計表全体の報告と質問等への回答は「ML ニュースNo.8」にて行います。

1. 開館時間について

まず始めに、現在の利用状況、つまり「図書館の利用頻度」(図1参照)、「主な利用時間」(図2参照)、「来館目的」(図3参照)についてたずねました。

図書館を利用する時間帯は、教官については午前中はほとんどなく、午後、夜間の順に多くなっています。この傾向は院生の場合も同様ですが、やや夜間より午後の利用が多くなっています。現在の開館時間に対してはどう考えているのでしょうか。図4に示したとおり、教官は学生休業中の17時閉館に対して過半数の人が不満を抱いているようです。院生は全期間の開館時間に対して、なかでも土曜日の開館

時間(10時~16時)に対して強い不満を抱いているようです。

それでは、具体的に何時ぐらいまでの開館時間の延長を望んでいるのでしょうか。平日、学生休業中、土曜日についてそれぞれの結果を図5~7にまとめてみました。

平日(20時まで)では各学部、教官・院生とも、21時、22時までの延長を望む声が強いです。また、人数としては少ないですが、院生では3学部で24時までの開館を望む声があるのも特徴的です。

学生休業中では、平日と同様20時までの開館を望む声が強いです。学生休業中の17時閉館に対す

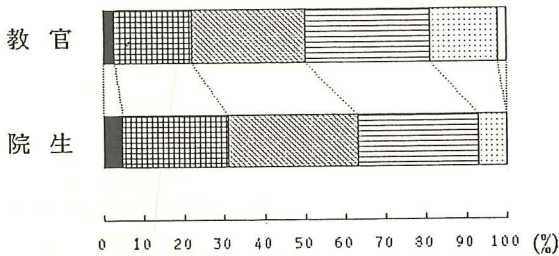


図1 図書館の利用頻度
毎日■ 週2~3回■ 週1回■ 月2~3回■
月1回以下■ 利用しない□

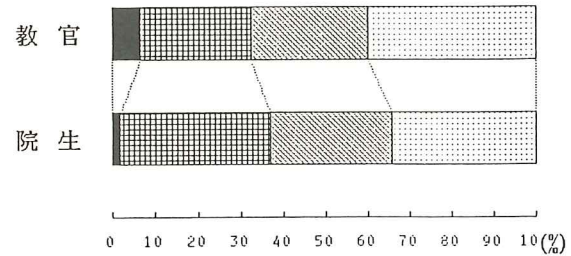


図2 おもな利用時間帯
午前中■ 午後(5時頃まで)■
夜間(5~8時頃)■ 随時■

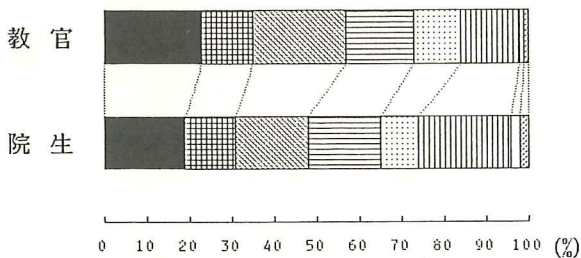


図3 おもな来館目的
図書・雑誌等の閲覧■ 図書の借用■ 雑誌の借用■
資料のコピー■ 情報検索サービスの利用■
研究に必要な資料の調査■ 新聞・教養雑誌の閲覧■
論文・レポート等の作成■

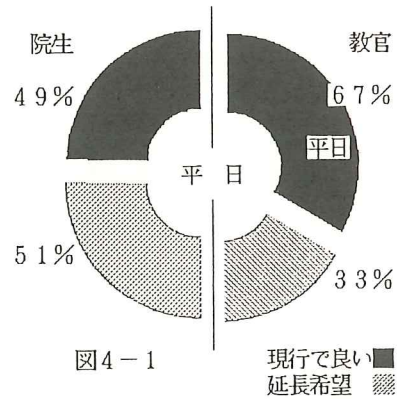


図4-1

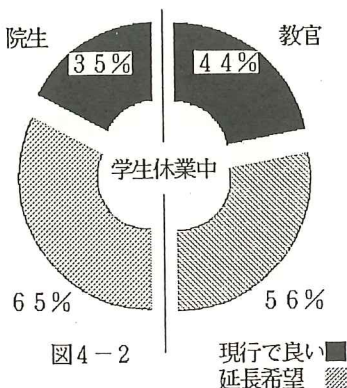


図4-2

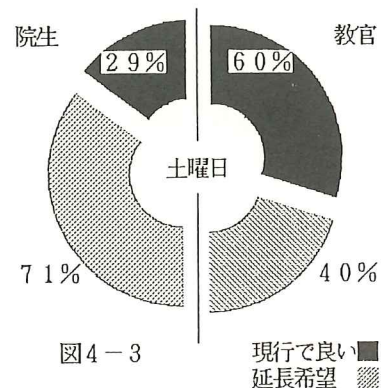


図4-3

る不満は日常業務の中でも耳にしていますが、それがはっきりと数字に表されています。

土曜日については、教官では17~18時または20時までの延長を望む声が比較的強く、それは院生でも同様です。せめて、平日並みの20時くらいまでは開館して欲しいという要望だと思われます。ただ、医学部教官でわずかではありますが、開館時間を短縮してはとの声があったことは意外でした。土曜日はほとんど利用しないという人もいます。

時代の流れとして、特に附属病院とともにある医科系の図書館では、24時間開館へと進んでいるよう

です。開館時間延長に要する経費など大きな問題もありますが、蔵本分館もこの流れを傍観しては行かなくなってきているようです。

2. 雑誌貸出、及びコピーについて

平成7年1月より、雑誌は館内利用を原則とし、貸出をオーバーナイトローン方式に変更しました。これは雑誌貸出を夕刻から翌朝の開館時間までに限定することで、「貸出中につき利用できない」という事態をできるだけ少なくするためです。当初は多少の混乱も見受けられましたが、11ヵ月を過ぎた現在、

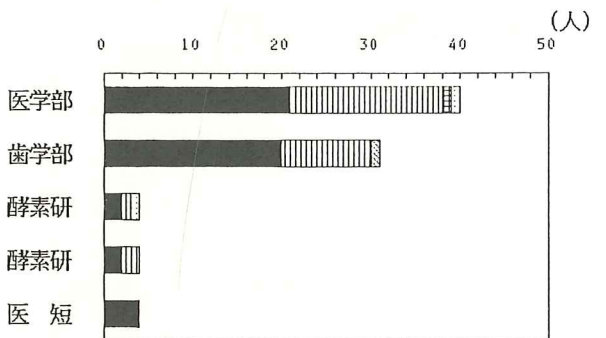


図5-1 開館時間延長の希望時間(平日・教官)
21時■ 22時▨ 23時▩ 24時▧ 1日中▦

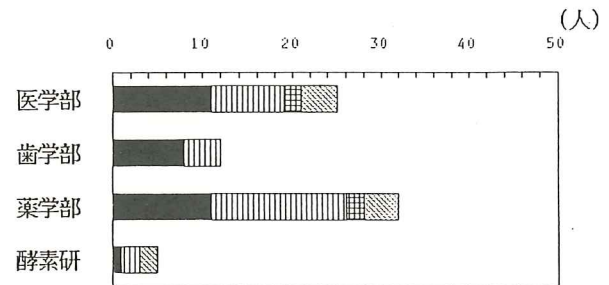


図5-2 開館時間延長の希望時間(平日・院生)
21時■ 22時▨ 23時▩ 24時▧

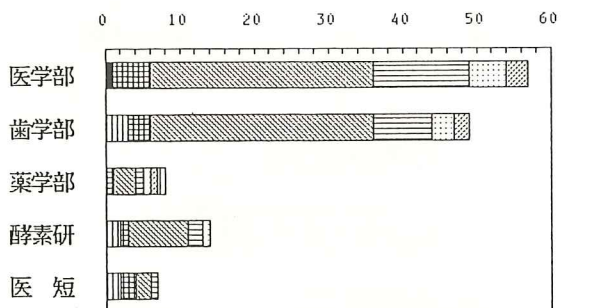


図6-1 開館時間延長の希望時間(学生休業中・教官)
17時■ 18時▨ 19時▩ 20時▧ 21時▦
22時▤ 23時□ 24時▧ 1日中▦

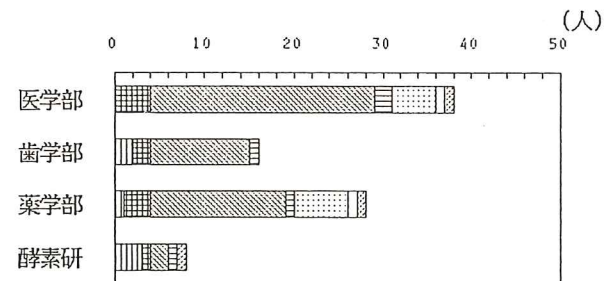


図6-2 開館時間延長希望(学生休業中・院生)
17時■ 18時▨ 19時▩ 20時▧ 21時▦
22時▤ 23時□ 24時▧ 1日中▦

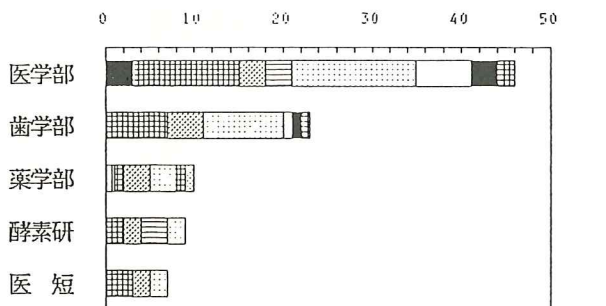


図7-1 開館時間延長希望(土曜日・教官)
14時■ 15時▨ 17時▩ 18時▧ 19時▦
20時▤ 21時□ 22時■ 23時▨ 24時▩
1日中▦

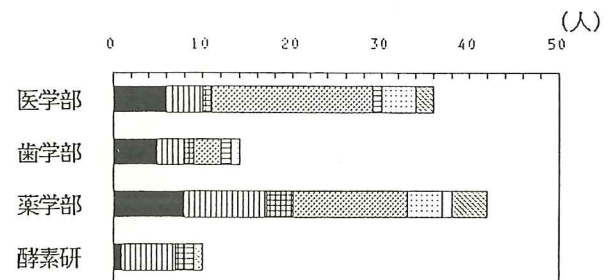


図7-2 開館時間延長希望(土曜日・院生)
17時■ 18時▨ 19時▩ 20時▧ 21時▦
22時▤ 23時□ 24時▧

定着しつつあるようです。

雑誌の貸出について最新着、新着、バックナンバー各々について貸出方式と冊数の希望をたずねました。結果は図8の通りです。

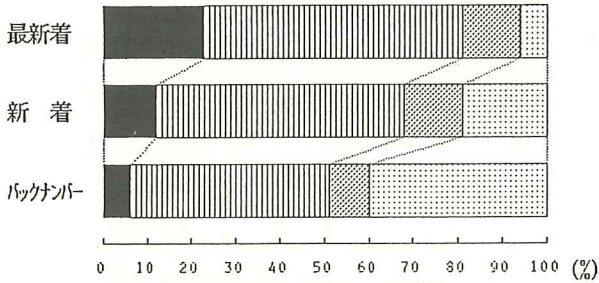


図8-1 雑誌貸出の希望 (教官)
貸出しない■ 一夜貸出▨ 当日貸出▩ 数日貸出▪

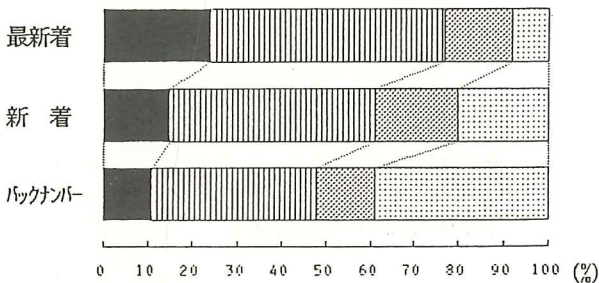


図8-2 雑誌貸出の希望 (院生)
貸出しない■ 一夜貸出▨ 当日貸出▩ 数日貸出▪

最新着の雑誌については、過半数の人がオーバーナイトローン方式を支持していました。また、約1/4の人が“全く貸出しない”を選択していました。これには、最新着の雑誌はいつでも閲覧できるように常に図書館に備えておいて欲しいとの要望が強く表れています。

新着のものについてもほぼ半数の人がオーバーナイトローン方式を支持しています。しかしその一方で、数日間の貸出を望む声も多くなっています。院生ではその傾向がより強くなり、基本的に貸出する(当日貸出+数日貸出)が40%を占めています。

このような傾向はバックナンバーになると、ますます強くなります。貸出を求める声(当日貸出+数日貸出)が50%を占めるようになり、貸出期間もより長期間を望む人が多くなってきています。

また、ここには示しておりませんが、学部別の特徴としては、酵素研が他の学部より貸出要求が強いようです。この傾向は歯学部の病院にも多少みられます。逆に、医学部、薬学部では、基本的に雑誌は

図書館でいつでも読めるようにきちんと置いていて欲しいと考える人が多いようです。

ちなみに図書館の貸出については、現行の「5冊、10日間貸出」に対して、教官89%、院生82%が支持していました。

図書館でのコピー機の利用は貸出方式の変更以後、急激に増えました。そこでコピーに関して、「図書館でどのくらいの頻度で利用するか」(図9参照)、「コピー機の増設を希望するか」(図10参照)をたずねました。ちなみに、図書館以外でのコピーはほとんどの人が学部共同利用か、研究室でされているようです。

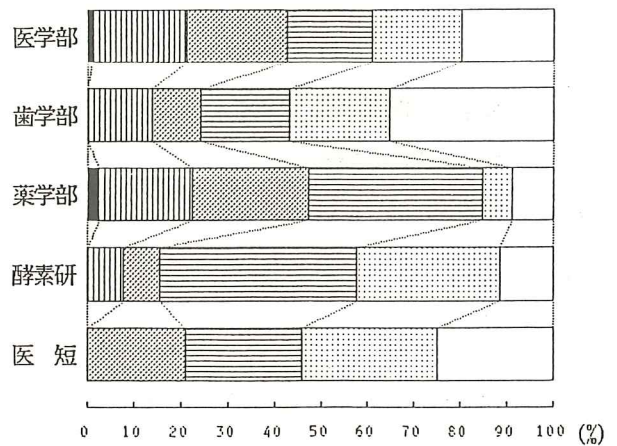


図9 コピー機の利用頻度
毎日■ 週2~3回▨ 週1回▩ 月2~3回▪ 月1回以下▫ 利用しない□

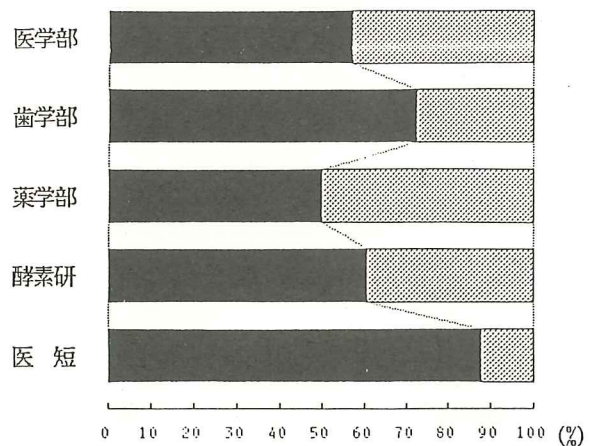


図10 コピー機の増設希望
現行(2台)のままでよい■ 増設希望▨

図書館内でのコピー機の使用は、医学部と薬学部が多いようです。コピー機の増設については、「現行のままでよい」が過半数を占めており、当面は現在の台数で運営できそうです。

コピー機に関しては、その他の意見欄にも多くの

コメントが寄せられ、関心(不満?)が高いことがわかります。「コピー後の返却配架は図書館員がすべき」とのご意見がありましたので、9月からコピー機の後側に返却棚を設けました。なお、コピー機の利用は午後2時から4時の間に集中していますので、少し時間をずらせていただければ並ばずにすむかもしれません。また、一度に多量のコピーをする場合は、譲り合いの精神を発揮していただければ幸いです。

3. CD-ROM 検索システムについて

現在図書館で検索できるCD-ROMには、MEDLINE, CCOD: life sciences, 医学中央雑誌があります。これら以外のソフトを希望する人は、教官で約45% (108人), 院生で約34% (48人) でした。次に「希望する」と回答した人に対して、4種のソフトを例にあげ「具体的にどのようなソフトを希望されますか」と複数回答可でたずねました。4種のソフトとは、「BIOLOGICAL ABSTRACTS」, 「SCIENCE CITATION INDEX」, 「EMBASE (EXCERPTA MEDICA)」, 「CCOD: Physical, Chemical and Earth Sciences」で、それぞれの結果は図11の通りです。「BIOLOGICAL ABSTRACTS」と「SCIENCE CITATION INDEX」が全体でほぼ同数の希望がありました。これら以外のソフトでは、「CHEMICAL ABSTRACTS」(5人), 「JICST」(2人), 「JACS 等化学系」(1人)などの名前があげられていました。

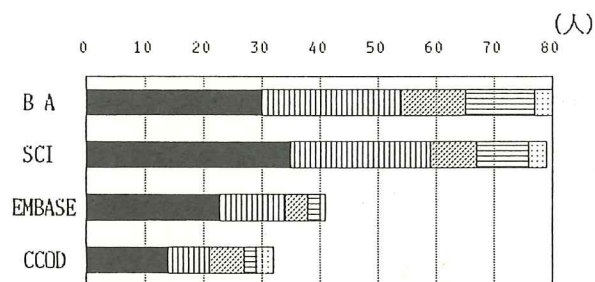


図11 CDソフトの希望
医学部 ■ 歯学部 ▨ 薬学部 ▩ 酵素研 ≡ 医短 ∴

それでは、ソフトを導入する場合の経費負担方法についてはどうなのでしょう。その結果を図12に表しました。教官では均等に三種類の方法にわかれ、院生では、受益者負担より地区内学部での

負担、また、それより広範囲な全学部での負担を望んでいるようです。教官の方が新しいソフトの導入希望が強く、経費負担についても、自身で、または自分達の学部で責任を持つと考える人が多いようです。

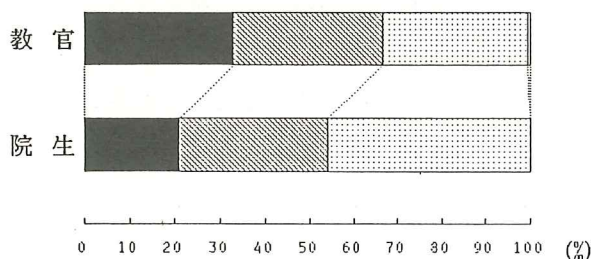


図12 経費負担方法
受益者負担 ■ 地区内学部負担 ▩ 全学部負担 ∴ その他 □

次に検索結果の主な出力方法についてたずねました。結果は図13の通りです。教官では自分のフロッピーディスクにダウンロードする人も3人に1人いますが、大半の人はプリントアウトしているようです。図書館に置いてあるMEDLINEの端末では、以前は3台ともプリントアウトできたのですが、1台のプリンターを共用していたため負荷がかかり過ぎて、頻繁に故障が起きてしまいました。一度故障すると、修理に時間がかかってしまい、利用者の皆さんにご迷惑をかけていました。そこで、全く使用できない状態に陥るより、1台だけでもいつでも使用できる方がよいと考え、現在プリントアウトできる端末を1台に限定しています。また、検索結果をフロッピーディスクに保存すると、自分専用のデータベースに編集することもできますので、一度お試しください。

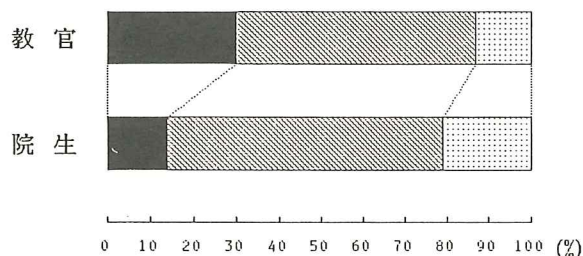


図13 検索結果の出力方法
ダウンロード ■ プリントアウト ▩ 画面 ∴

検索システム講習会の開催については、教官では約61%、院生では約56%の人が希望していました。

過半数、学部によっては70~90%の人が開催を希望しているということは、それだけ多くの人達が検索の機械へのとっつきにくさを感じていたり、今までの検索方法や結果に満足していないことを表わしているように思います。残念ながら現在講習会は開かれていませんが、各検索端末の横にマニュアルを備えつけています。また、職員もマンツーマンでご説明しますので、気軽に声をかけてください。

図書館で作成している文献検索マニュアルについては、図14のような結果でした。約70%の人が「普通」と答えています、「分かりにくい」との意見が25~30%もあり、学部別にみましても、マニュアルが分かりにくいと答えたところほど、講習会の開催

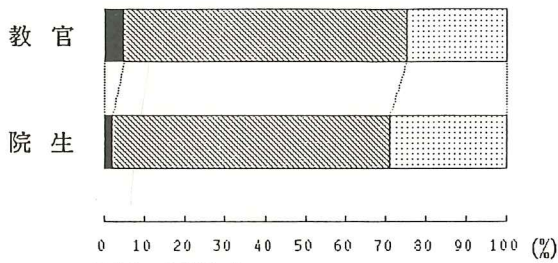
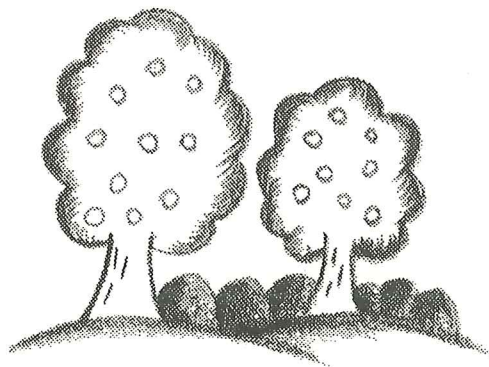


図14 文献検索マニュアル
わかりやすい ■ 普通 ▨ わかりにくい ▩ (%)

を希望しています。今後、改善していかなくてはならない問題です。具体的なお指摘がありましたら、ご教示下さい。また、「各部局へMEDLINEのマニュアルを配布して欲しい」との意見もありました。教室からのMEDLINE検索サービスの申込みをしている部局へは、ID配布時に一緒にお渡ししています。希望される方は、お渡しできますのでカウンターまでおいでください。

今回のアンケート調査を行ったことによって、利用者の方の声を知ることができました。せっかく寄せられた声ですから、今後業務に生かすようにしたいと考えています。いろいろな改革にあたって問題になるのは費用対効果の問題です。開館時間を例にとっても、どの程度の時間延長でどのくらいの利用があるのか見極めることも重要です。また、「学生の意見も聞いてはどうか。」とのご意見もありました。同様の調査を学生対象に行えば、教官・院生の方とは異なる視点での意見が出てくるかもしれません。

最後になりましたが、お忙しい中アンケート調査にご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。



新入生ガイダンスの在り方（本館）

情報サービス係 日高 奈三江

新入生ガイダンスについては、すでに前号の「すだち」でトピックスとして取り上げられていますが、今回はもっと踏み込んだ内容で、新入生ガイダンスについて総括した結果を報告したいと思います。

まず、参加人数ですが、新入生1,317人中265人が参加しており、参加率は20%となっています。学部別の参加状況については、下の表に示してあります。

この中では、歯学部の参加率67%が目を引きますが、これは、ガイダンスの直前に専門科目の講義で、教官からPRをしてもらっていたので、その効果だと思われま。また、総合科学部の参加率が比較的高いのは、ガイダンスの実施時期が早かったのに加

た。ガイダンス実施中から、参加者の少なさ、参加者の反応等を見てもガイダンスの在り方に疑問を抱かざるを得ず、総括の内容は、「もっと充実したガイダンスを行うためにはどうしたら良いのか?」「新たな図書館利用者を獲得するために、ガイダンスはどうあるべきなのか」という点に集中しました。以下は、総括で出された提案です。

1) 本の検索の仕方、書庫内の説明などは、必要が生じた時に、集団ではなく個別にしてあげたほうが親切では? (これまでも、書庫内の説明などは、特例貸出証を発行する際に行っていた。)

2) 4月・5月に、月2回程度(午後)、図書館に

学 部	参加人数 (学生総数)	参加率
総合科学部	98 (280)	35%
工学部(夜間主コースを含む)	105 (746)	14%
医学部	7 (149)	5%
歯学部	40 (60)	67%
薬学部	15 (82)	18%
合計	265 (1,317)	20%

〈表：学部別 ガイダンス参加状況〉

えて、やはり、図書館にもともと馴染みのある(と思われる)人文系の人が多かったためでしょうか。

次に、参加した学生からの反応とガイダンスの効果について見てみます。前回の報告にもあった通り、学生は視聴覚機器に一番高い関心を示し、ガイダンス終了後には、新入生の視聴覚の利用が若干増加するという効果になってあらわれました。その他に、普段入ることのできない書庫の中を見て、その資料の多さに驚く、という光景もしばしば見られました。しかし、全般的な反応としては、図書館員の説明を黙って聞くだけで、利用方法についての質問もあまりなく、積極的な参加態度とは言えなかったようです。

ガイダンス終了後、担当係内で、総括を行いまし

掲示をし、集まった人数を15~20人のグループに分けて行う。説明のうち、目録カード検索、OPACの利用などを詳しく説明する。

3) オリエンテーションかガイダンスかどちらかにすればよいのでは? ガイダンスを実施するなら時期を早めて、段取りよく行う。または希望者制にすればよいのではないか。実際、新入生以外から、ガイダンスを行って欲しいという要望があった。

4) ガイダンスを目的別に捉え直す必要があるのではないか。

a) 新入生を対象とし、すべての新入生に図書館を見てもらうことを目的とするなら、オリエンテーションと同時期におこない、できれば、授業

の一環として位置づけるようにする。

b) ガイダンスを希望する学生を対象とするなら、「検索コーナーの使用法」「書庫の使用法」など数種類のガイダンスを設定する。日程は各コース月一回程度にする。

今後のガイダンスは、以上の提案をふまえて、さらに充実したものにしていくつもりですが、参加する皆さんは、どんなガイダンス（あるいはその他のPR）を図書館に希望していますか？直接、あるいは間接的にでもいろいろな意見をお待ちしております。

図書館日誌

人 事 往 来

	氏 名	新 官 職	旧 官 職	発 令
採 用	津 覇 小 香	情報サービス係		平成7.10.3
退 職	武 田 直 樹		総 務 係	平成7.11.30
採 用	近 藤 玲	総 務 係		平成7.12.1

編集後記

阪神大震災から1年が経過しました。記憶を新たにする意味で、大学図書館と大震災との関わりについて、2つの記事を掲載しました。

[お詫びと訂正]

52号の「OPAC利用法② TELNET版 OPAC」の説明（9頁右段中央）で、以下の誤りがありましたので、お詫びするとともに訂正させていただきます。

記

誤

正

telnet opac.tokushima-u.ac.jp → telnet opac.lib.tokushima-u.ac.jp

編集事務を担当して初めての号では、神経質ほど校正に気を配るのが普通ですが、肝心な部分の誤りを見落としていました。お詫びいたします。発行直後に読者の方から電子メールで誤りを指摘していただきましたので、早速電子メールでTUNESの支線管理者の方々に訂正の周知をお願いした次第です。ありがとうございました。今回のことで「すだち」の愛読者が確かに存在するのだ、との思いを新たにしました。

更に気を引き締めて編集に当たりたいと思っています。(Y.O.)

編集委員会：委員長・青山吉隆 委員・宍戸，増田，隅田，小倉，岡田，折原

発 行：徳島大学附属図書館

(〒770) 徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)56-7584 内線(6111)

FAX 附属図書館(本館)(0886)55-9593 蔵本分館(0886)33-2950